

# 中干しの徹底で品質の良い米づくりを図りましょう

松本農業農村支援センター

近頃は繁茂しないと中干しをしなかったり、6月末になったら中干しをするといったカレンダー的な作業となる事で、生育にあった中干がなかなか実施されていません。

その結果、早期に倒伏したり、根の活力が落ちて収量・品質が低下する事例が増えています。

適期中干しにより無駄な生育を抑えて、倒伏しにくい稲を育て、根の活力を維持して実りの良い高品質な米を生産しましょう。

## 中干しの効果

- 1 無効茎(穂の付かない茎)を減らし、適正な生育量を維持する
- 2 下位節間の伸長を抑えて、倒伏しにくい稲にする
- 3 土壌中に酸素を供給して根の健全化を図る

## 中干しの方法

田面に幅5mm位のヒビが入り、足跡がつく程度まで干す。

生育量の多い圃場は強めに、生育量が少ない圃場は弱めに干す

水尻を必ず切り、降雨が続いても圃場に水がたまらないようにする。

## 中干しの時期

田植え約30日後頃。目標茎数の80%位になった時期から5日程度行う  
水持ちのよい圃場は長く、水持ちの悪い圃場は短くする。

品 種	植付 株数	植付 株数	目 標 数		最高分けつ期 の目標茎数		中干し開始時期 の目標茎数	
	(m <sup>2</sup> )	(坪)	(m <sup>2</sup> )	(株)	(m <sup>2</sup> )	(株)	(m <sup>2</sup> )	(株)
コシヒカリ	22	70	506	23	633	29	506	23
	18	60	450	25	563	31	450	25
	15	50	405	27	506	34	405	27

※ 中干し開始時期の目標茎数は最高分けつ期の目標茎数の80%



中干し直前の状況 (20~22本/株)



この位まで干しましょう

- 水持ちが良すぎる圃場やガスわきの目立つ圃場では、根の活力低下や根張りが不良になりやすいので、中干し前でも1日程度の短期落水や水の入れかえを行い、酸素を供給して根の健全化を図りましょう。